
中国情報（畜産）

2007年4月2日号

◎2006年中国飼料市場の状況分析と2007年展望

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2006年における中国飼料市場の分析結果と2007年展望について発表した。その概要は以下のとおりである。

2006年中国飼料の総生産量は1億トンを上回り安定しているものの、昨年を下回った。

前年比では、飼料原料トウモロコシ、大豆粕とメチオニン(methionine)の輸出が減少し、輸入が増加した。また、魚粉とリジン(lysine)の輸出は増加したが輸入は減少した。

年間の飼料製品の価格は、ここ数年来の堅調である。大豆粕を除く飼料原料用平均価格は2005年水準を下回るものの、トウモロコシ、飼料用魚粉、リジン、メチオニンの年平均価格は2005年を上回った。

一、2006年中国飼料生産状況

全国124の定点の飼料生産企業の生産統計及び一部の原料生産企業の実産量を見ると、2006年上半期の飼料生産量が大幅に減少したことにより、年間飼料生産量は2005年を下回った。

2006年の全国の飼料製品の総量は1.024億トンと見込まれ、前年比4.5%減となった。

その内、配合飼料生産量は7,360万トン、前年比5.1%減、濃厚飼料2,428万トン、前年比2.8%減、プレミックス生産量455万トン、前年比4.5%減であった。

品目別に見ると、肉用家禽飼料は鳥インフルエンザなどの影響による生産量の大幅な減少、上半期の豚生産の低迷から豚用飼料生産も大きな影響を受け生産量は減少傾向となった。しかし、反芻動物用飼料、水産用及び特殊飼料などは依然として増加傾向である。

二、2006年飼料用原料の輸出入状況

1 トウモロコシ輸出大幅減、輸入増加であるが、輸入総量は少ない。

(1) トウモロコシ輸出は大幅減

税関統計によると、2006年中国トウモロコシ輸出量は307.04万トン、前年比64.34%減。主要輸出先国は韓国で、総量の64.3%を占めた。トウモロコシ輸出地域は東北に集中している。

(2) トウモロコシ輸入量は大幅に増加したものの総量は少ない。

トウモロコシ輸入量は 6.51 万トン、前年比 16.7 倍であった。主要輸入相手国は米国であり、総量の 91%を占めた。山東省が最大のトウモロコシ輸入地域であり、総量の 80%程度を占めた。

2 大豆粕の輸出量減、輸入増

(1) 大豆粕の輸出量は減少

2006 年の大豆粕輸出量は 38.15 万トン、前年比 31%減であった。主要輸出先国は日本で、総量の 80%を占めた。大豆粕輸出の主な地域は遼寧省と河北省であり、総量の 70%以上を占めた。

(2) 大豆粕の輸入量は増加

2006 年の大豆粕輸入量は 67.42 万トン、前年比 3.33 倍であった。主要輸入相手国はインドで、総量の 75%を占めた。大豆粕の主要輸入地域は、北京と広東省で、総量の 60%程度を占めた。

3 飼料用魚粉の輸入量は減、輸出量は増、国内需要は依然として輸入魚粉に依存している。

(1) 飼料用魚粉の輸入量は減。

2006 年の飼料用魚粉の輸入量は 97.72 万トン、前年比 38.17%減であった。主要輸入相手国は、ペルーとチリで、総量の 78%を占めた。主要輸入地域は福建省、広東省、北京市で、総量の 60%以上を占めた。

(2) 飼料用魚粉の輸出量増

2006 年の飼料用魚粉の輸出量は 7990.88 トン、前年比 3.96 倍であった。主要輸出地域は山東省であった。

4 リジン輸出は増、輸入は減の出超

(1) リジン輸出量増

2006 年のリジン輸出量は 14.29 万トン、前年比 2.21 倍であった。主要輸出国はオランダで、総量の 26%を占めた。主要輸出地域は、吉林省である。

(2) リジン輸入量減

2006 年のリジン輸入量は 2.48 万トン、前年比 54.43%減であった。主要輸入相手国は韓国、米国、タイ、ブラジルで、総量の 95%を占めた。主要輸入地域は広東省で、総量の 30%以上を占めた。

2001 年のリジンの生産能力不足は 5 万トンであったが、2005 年 11 月以降は純輸出国となっている。

5 メチオニン輸入量増、輸出量減、輸出量は少ない

(1) メチオニン輸入量増

2006年のメチオニン輸入量は8.10万トン、前年比21.44%増であった。主要輸入相手国は日本とベルギーで、総量の72%を占めた。主要輸入地域は、北京市、広東省、山東省、天津市で、総量の60%以上を占めた。

(2) メチオニン輸出量減

2006年のメチオニン輸出量は834.6トン前年比4.11%減であった。主要輸出先国はベルギー、米国で、総量の45%を占めた。主要輸出地域は、江蘇省、広西自治区で、総量の50%程度を占めた。

三、2006年飼料価格

(1) 飼料製品の価格

肥育豚用飼料価格は、若干の上昇傾向で安定しているが、年平均価格は前年を下回った。2006年の肥育豚用の平均飼料価格は1.87元/kg、前年比0.88%下回った。

第1四半期の肥育豚用の飼料価格は安定しつつも低落したが、5月から上昇し8月には1.92元/kgに達したが、9月には1.88元/kgまで反落し、その後、飼料原料価格が上昇し、飼料製品の価格が上昇したことにより、12月の価格はここ数年の最高価格(1.96元/kg)に達した。



原資料：农业部畜牧业司。

(2) 飼料原料価格

ア トウモロコシ価格は概ね上昇傾向で、前年を上回った

国内市場

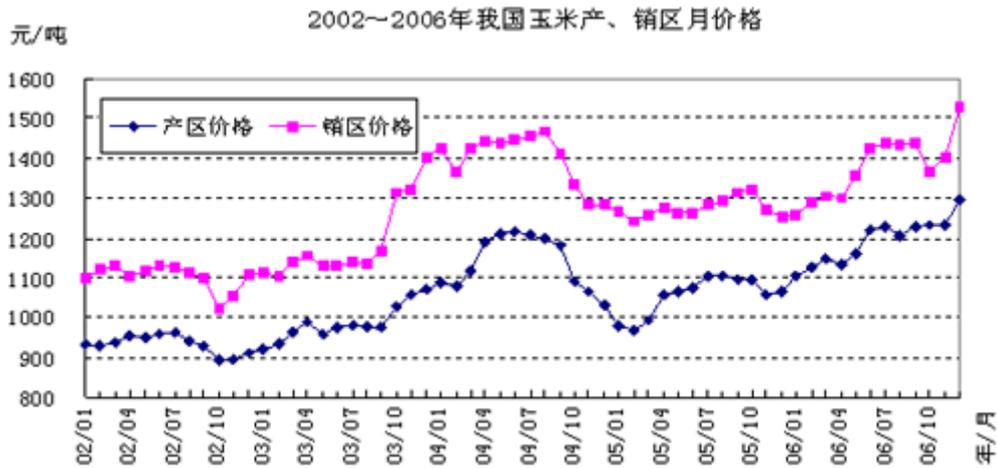
2006年の生産区と販売区の平均価格は各々1193.2元/トン(出庫価格)、1424.9元/トン(駅での受渡価格)で、各々前年比13.18%、8.26%高となった。

2006年の国内トウモロコシ市場価格は概ね上昇傾向であった。特に第2四半期と第4四半期のトウモロコシ価格は大幅に上昇し、12月の価格はここ数年で最高であった。

第2四半期の生産区と販売区の平均価格は各々7.58%、8.81%上昇し、第4四半期の生産区と販売区の平均価格は各々5.44%、12.52%上昇した。

2006年の価格上昇の要因は

- ① 工業用消費の急速な増加
- ② 気候の影響により、2006年の東北地域の脱穀が平年に比べて1ヵ月近く遅れた上、輸送力不足と、農民の売り惜しみにより段階的に供給が減少し、価格の季節外れの上昇を招いた。
- ③ 先物価格上昇が現物価格を押し上げた。



原資料：国家粮油信息中心。

国際市場

全世界のトウモロコシ価格は引き続き上昇傾向であり、2006年12月の米国及び全世界のトウモロコシ価格は大幅に上昇、12月の後半のCBOTトウモロコシ先物は6%近く上昇した。これは主にアルコール業界と飼料加工業界の需要増加による。

米国農務省（USDA）は全世界のトウモロコシ不足の進展を予測しており、2006/2007年度の世界トウモロコシ生産量は6.88億トン、総需要量7.26億トン、不足0.38億トン、これに対し前年度の2005/2006年度世界トウモロコシ生産量は6.95億トンで、総需要量7.01億トン、不足0.06億トンとしている。

イ 大豆粕価格は下落後上昇し、年平均価格は前年を下回った

2006年の大豆粕の平均出荷価格は2197.4元/トンで、前年比12.88%安、2004年対比22.35%安となった。

2006年の国内大豆粕価格は軟調に推移し、最高が1月の2412元/トン、最低が8月の2043元/トンで、1月に比べ15.30%下回り、2003年4月来の最低価格であった。

大豆粕価格が下落した主な要因は、上半期の国内牧畜業の発展速度が鈍化するなかで国内の大豆と大豆粕の需給が大幅に緩和したことによる。

9月以降には大豆粕の需給は改善され、大豆粕価格は反発したが、12月に新豆の大量の販売で大豆粕の供給量は増加し、国内の大豆粕の市場価格は再び反落した。

全般的に見て、2006年の年間大豆粕の平均価格は下落後上昇したが、前年の価格を下回った。

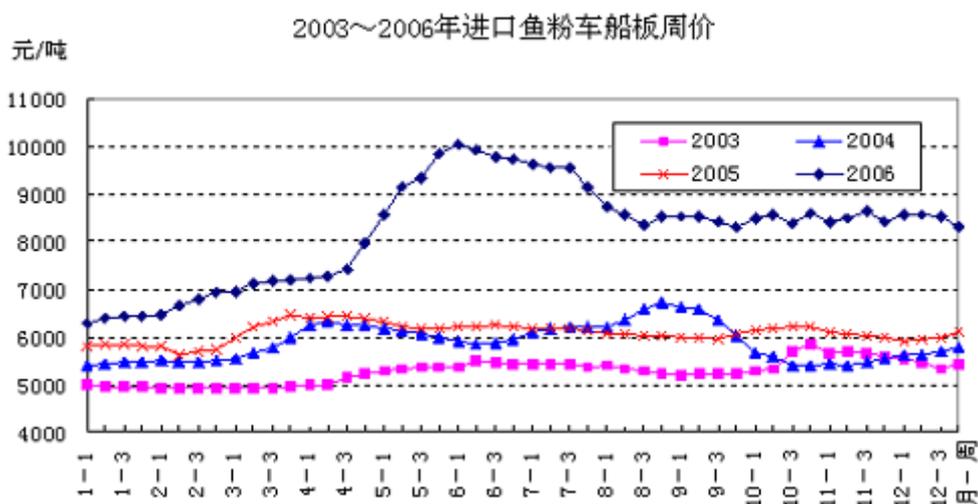


原資料：国家粮油信息中心。

ウ 輸入魚粉の価格変動は大きく、近年最高となった

2006年輸入魚粉価格は堅調に推移し、2003年来の歴史的な高価格となった。

貨車や船への積載時の平均価格（FOB）は8232元/トンで、前年比35.22%高となった。



原資料：：东方艾格资讯。

2006年の国内の輸入魚粉価格は、緩やかな上昇—急速な上昇—穏やかな下降—小動きとい

う動きを示した。

これは、国際魚粉資源が逼迫したため、輸入魚粉価格は4月下旬（7408元/トン）から急速に上昇し、6月初めの価格は10050元/トンまで急騰し上昇率は35.66%に達した。

6月以降、需要が鈍化した上に輸入貨物の到着が集中し、魚粉価格は反落した。

8月下旬までの価格は8363元/トンまで下落し、下降率は16.79%であった。

その後、輸入魚粉価格は、堅調に推移し8300～8600元/トンであった。

(3) 主要添加剤の価格

ア リジン輸入価格は軟調に推移したが、昨年の上昇を上回った

2006年のリジン輸入平均価格は13.30元/kg、前年比5.16%上回った。

四半期別では、第1四半期では国内の養殖業の生産が増加したものの全体の需要量の増加は小幅で、国内供給が減少したことにより市場価格は上昇した。

第2四半期では、需要量が頭打ちで、その上全体供給量は潤沢であったことから価格は反落した。

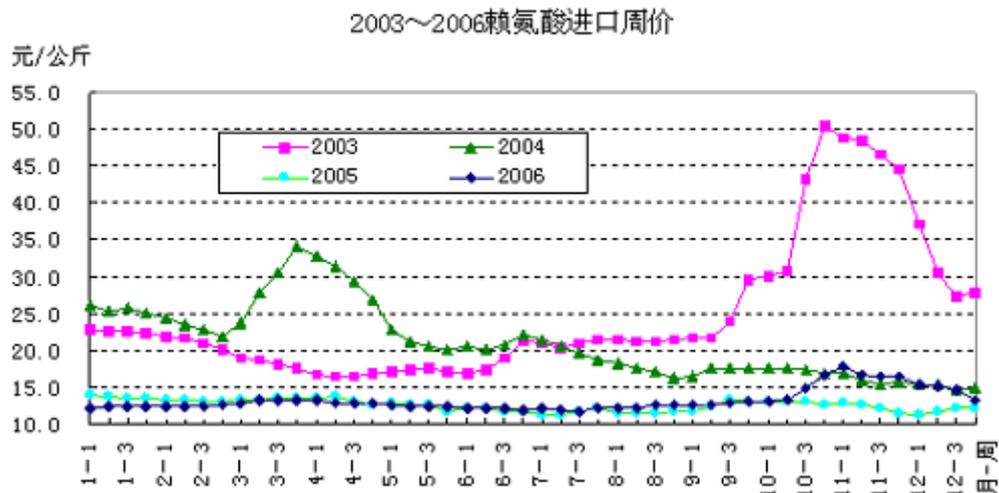
第3四半期では国内の畜産品価格の上昇により需要量が増加し、価格も上昇傾向となった。

第4四半期では、国内畜産品価格が堅調に推移し、国内家畜飼育頭数も前期と比べ増加し、リジン需要も比較的多く、また、国際市場のリジン供給が逼迫したことが価格上昇の一因となった。

2006年10月下旬には2004年末からの安値15元/1kgを上回り、11月第1週の輸入価格は18元/kgに上昇した。

しかし、11月以降、国内市場の供給が需要を上回る状況が価格下落を招き、12月末には15元/kgを下回った。

全体には、2006年リジン輸入価格は上昇下降局面があったが、その変動は小幅であった。

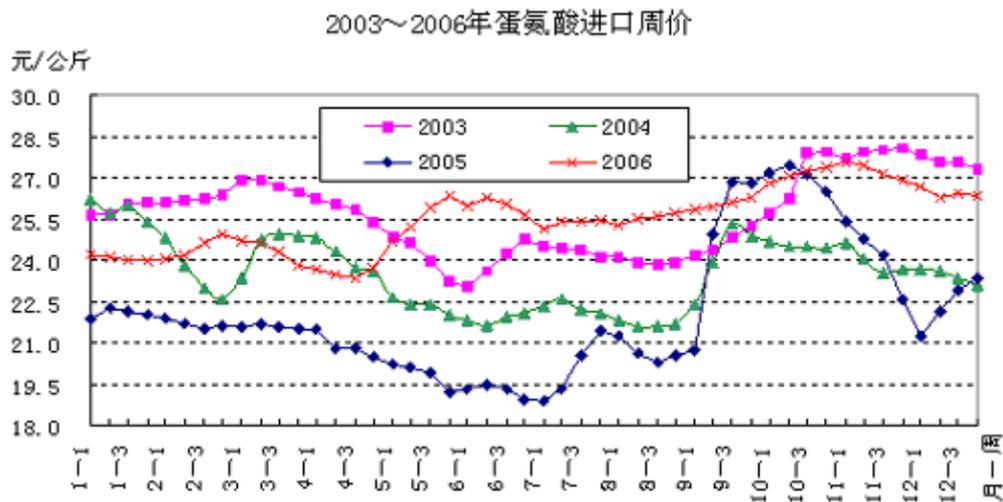


原資料：： 东方艾格资讯。

イ メチオニン輸入価格は前年を上回った

2006年のメチオニン（固体）平均輸入価格は25.00元/kg、2005年対比17.81%高、2004年対比6.94%高となった。

1～12月のメチオニン（固体）の輸入価格は、小動き、上昇、下降、緩慢な上昇と変動した。1～2月中旬ではメチオニンの需要は少ないが、供給が逼迫したことにより価格は引き続き堅調であった。3月初め～4月下旬は、家禽産業の発展が緩慢で需要が供給を下回り市場価格は下落した。4月末～5月末は原油価格の上昇により価格は若干上昇した。5月下旬は供給が潤沢で市場価格は若干下落した。7月以降は養殖業の好転により需給状況は回復し始め、供給の減少により価格は安定上昇傾向にあった。11月以降は需給が穏やかに回復したものの、メチオニン市場は安定しつつも若干価格が下落した。



原資料：：东方艾格资讯。

四、2007年飼料の状況と展望

2007年の飼料業界は発展するであろう。

1つは、牧畜業の巨大な発展により飼料業界が引き続き拡大し、中国の飼料総量は引き続き増加傾向となる。

2つは、消費が拡大し、水産物、牛、羊肉の需要が増加することから、それによって水産、牛用飼料、特殊飼料の需要が急速に増加する。

3つは、将来の飼料業界の集中度が漸次高まる可能性があり、優良企業はますます発展する。